

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500509
法人名	社会福祉法人 大川鶴喉会
事業所名	グループホーム こすもす苑 (ユニット名 1 )
所在地	福岡県大川市大野島855番地
自己評価作成日	平成24年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成24年12月3日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人の「敬愛」の理念の元、住み慣れた地域にて安心して暮らせ、また、ご利用者一人一人が主体的に暮らせるように努めています。畑で野菜を作ったり、食事の準備等一緒に行ったりご利用者が役割を持って暮らして頂けるように支援しています。また夏祭りや木工祭などに参加したり、お弁当を持って花見にでかけたりと地域へ出て行く機会を多く取り入れ、また、隣接する足湯で地域の方と交流したりと、地域に根付いた支援を行っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人を母体とする事業所は、筑後川と早津江川に囲まれた広々とした田園地帯に立地し、介護老人福祉施設や小規模多機能施設と隣接して建ち、木の温もりを感じる木造の建物である。また、事業所には温泉が引かれ、利用者や地域住民が散歩の折に利用できる「足湯」も設備されている。事業所では利用者に毎日新しい発見のある生活をして欲しいとの思いで「今日は〇〇の日」と記念日を設けてアイデアを活かした行事に取り組み、地域の行事や祭り、小学校行事に参加する等の外出も多く、地域交流も盛んである。また、法人独自の活動として、協力病院の保健師に事業所の視察点検を依頼し、介護の質の向上と住みやすい安全で清潔な環境作りに努めている。職員は「敬愛」の理念のもと、利用者が安心して自分らしく暮せるよう、尊敬と親しみを持って実践に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬愛」を基本理念とし、安心して快適な生活が送れるように、主体性を持ちその人らしい生活が送れるようサービス提供や支援を意識し、また、行動指針をその日の出勤者で復唱し常に意識して支援できるように業務にあたっている。	「敬愛」を基本理念とし、地域密着型サービスとしての意義を加味した「基本方針」を掲げている。職員は毎日「行動指針」を確認し、尊敬と親しみを持って支援を行い、利用者が自分らしく安心して生活できるよう実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にはご利用者の方と一緒に参加し地域との交流を行っている。また隣接する足浴に地域の方がお見えになり一緒に足湯につかり交流行っている。	地域の祭りや行事、小学校の運動会や田植・稲刈りに利用者と一緒に参加し、地域の清掃活動にも協力している。また隣接の足湯での交流や関連のグループホームと合同の「ふれあい交流会」により、ボランティアや地域住民、利用者、家族が参加する地域交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	去年は大川荘にて介護教室が開催されており、ご家族や地域の方と一緒に介護のことや認知症について学んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご利用者の状況、活動内容、事故・ヒヤリハット等の報告を行い意見を伺っている。また困難事例等の検討を行いサービス向上に努めている。	運営推進会議は民生委員、老人会代表、市役所職員、利用者、家族代表等の参加で偶数月に開催している。事業所の運営や利用者の状況、事故等の報告を行い、問題提起して理解や助言を得ている。助言により、乾燥や感染症対策に加湿器を設置する改善を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者も参加され、苑だよりを渡したり事業所の状況や取り組みを報告している。また介護相談員の方にも現状を見て頂いている。	市役所担当窓口へ事業所便りや運営推進会議の案内を持参して情報交換を行い、事故や支援課題のある事例、介護度の見直し等の相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて勉強会などで学び理解を深めている。ご家族様からの要望で転倒防止の為ベッド柵を使用されている方が1名いらっしゃるが同意書の記入をして頂き毎日、記録を残している。	職員は身体拘束について職員会議や勉強会で学び、その弊害を認識している。現在1名の方が家族の希望でベッドサイドレールを使用中であるが、毎月の検討会議で見直し、記録に残して家族に説明を行っている。玄関は昼間は開放し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や会議で取り上げ学習している。職員間においても発見する視野を持ち口調や態度等、注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されているご利用者はいらっしゃらないが相談があれば活用できるように支援していく。また、説明用のパンフレットを設置している。	職員は法人や所内研修で制度について学習し、理解を深めている。現在まで利用された方はいないが、玄関にパンフレットを準備し、必要な方には相談に応じる体制を整えている。しかし、家族への説明や啓発は行っていない。	玄関にポスターを掲示したり、毎月発行する広報紙「生き生きだより」に制度について掲載する等、家族や外部に向けての啓発活動について取り組むことを検討する機会を持つことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時、改定の際には、内容に沿って分かりやすいよう説明を行っている。不明な点、疑問に思われている事、不安な点を尋ねひとつひとつ確認しながらご利用者、ご家族に理解、納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明事項の中に苦情受付窓口を表記したり、第三者委員会の設置、玄関に意見箱を設置したり様々な方法で苦情が受け付けられるように努めている。また、ご利用者には生活の中で不満や苦情がないか確認している。	第三者委員会を設置し介護相談員を受け入れ、玄関に意見箱を置いて相談窓口のポスターを掲示している。また年2回無記名のアンケート調査を行い、家族の訪問時に要望や意見を聞くように努めている。しかし、アンケートや意見箱の活用はなく、家族同士が意見交換できる機会がない。	運営推進会議への家族参加はあるが、個人的に意見を言いにくい家族の立場に配慮し、敬老会等の行事の折に家族で話し合う機会を持ち、要望や意見を汲み取る工夫が望まれる。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、会議を設けご利用者の情報の共有やスタッフ間の意見交換の場を設けている。会議以外の場でも上司に相談したり、サービスの向上に繋げている。	毎月の職員会議の外にも、意見交換やアイデアを提案する場があり、職員は気づいた事は活発に意見を述べている。行事等は「行事実施計画書」を提出し、利用者が毎日新しい発見のある生活ができるよう支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、目標を定め、振り返り、改善していきながら、実行具合に応じて代表者は評価し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては経営母体の社会福祉法人が行っている。性別や年齢など理由に採用対象から排除されることはない。能力を活かせ、生き生きと勤務できるように配慮している。	募集・採用は母体法人が行っているが、年齢や性別等による排除はない。職員の年齢も幅広く、休みを調整して資格取得を支援したり、カメラや料理等の趣味や特技を活かして、働き易い職場環境作りを行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や勉強会などで繰り返し、「敬愛」の理念に沿って支援していくことを確認し、ケアの中で気になる事があればその都度声掛けを行いながら、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	職員会議や研修で事業所の理念や行動指針を共有し、尊敬や親しみを持って支援する事を確認している。日常の関わりの中で、利用者が自分らしく安心して歳を重ねられるよう、職員同士で注意しあっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では定期的に合同の勉強会が開催されており、職員は参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の同業者の意見交換会を行い、他のグループホームの状況や困難事例等、話し合う等の交流を行った。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時などご本人様の要望や困っている事等を傾聴し思いや不安を共有することでご利用者が安心し信頼関係を築いて行けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、不安なこと、要望等、傾聴しできるだけ受け入れられるように努めている。また秘密保持、プライバシー保護を示し信頼関係が築けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	民生委員や家族、親類、知人などの社会資源を活用できるように地域との連帯を図り支援できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の様々な場面において一緒に行うことが多くあり、教わりながら、共に協力し合いながら、より良い関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、ふれあい交流会の参加などご本人とご家族の関係を大切にしている。面会時に限らず、電話などでこまめに状況の説明を行うようにしており、病院受診時の協力依頼や、馴染みの美容院に連れて行ってもらったりと協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所の行事に参加したり、地域の方とふれ合う機会を設けるように努めている。	入居前の馴染みの場所の行事や祭りに参加したり、家族と行きつけの美容室へ外出したりしている。友人や家族の訪問時は一緒に外食に出かけている。家族へ行事案内の手紙を出したり、お盆と正月には自宅への外出を支援し、関係の継続に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格、相性など把握しテーブルの位置等配慮しながらご利用者同士、関わり合って行けるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の特別養護老人ホームの入所となり契約終了するケースが多く時々面会へ行き関係は大切にしている。入院の際も面会へ行き状況把握したりご希望があればいつでも相談にのれるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを傾聴し、生い立ちを把握しご本人の意向を重要視し自己決定を尊重しプランに活かせるように努めている。意思伝達が困難な場合はご家族へ相談を行っている。	利用者の日常生活の中から、会話や表情、動作を見ながら意向の把握に努めている。困難な場合は家族に相談し意向を伺うが、他の利用者と一緒に仲良く過ごして欲しいとの要望が多く、本人本位に検討して要望に沿えるよう対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境などご利用者、ご家族から情報収集をし生活の中で活かせるよう努めている。また以前に他事業所サービス利用があった場合は可能な限り事業所からの情報ももらえる様、連携を図っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りノートを活用し一人一人の生活リズムや変化、気付いた事を全職員が把握するように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を基に、介護職員、看護師、かかりつけ医等からの意見も取り入れながら介護計画を作成している。また、ご利用者の変化時には随時見直しを行っている。	事業所独自の生活記録で利用者の状態を毎月評価し、3ヶ月毎に計画の見直しを行っている。家族の参加に合わせてケアマネジャー、看護師、介護職員参加で担当者会議を開催している。事前に主治医より意見や情報を得て、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録では時間ごとにご利用者の具体的な様子や言葉、また、職員の気付きやご家族の意向など細かく記載し実践や見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週に一度ご家族と外出されたり、ご家族・ご友人と外食されたり、外泊されたり要望に応じ支援できるように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい交流会では地域の方にボランティアとして来て頂き歌や踊りの披露をして頂いている。また避難訓練では消防署より指導に来て頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用開始時には、ご本人、ご家族の希望を大切に以前より受診されていた病院へ行かれたりされている。緊急時の対応も話し合っており適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に事業所の協力医や病院の説明を行い、本人や家族の希望に沿ったかかりつけ医受診を支援している。定期受診や眼科・歯科等の受診は家族が行い、発熱等の緊急時は職員が送迎を行って適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中でバイタル、皮膚の状況、表情、手足のむくみなど細かい事でも看護師に報告し、処置や病院受診を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人、ご家族の同意を得て情報提供を行っている。また面会へ行き状況把握に努めている。病院関係者やご家族と情報交換を行い状況把握しやすいよう連携に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「医療連帯体制同意書」を用い説明を行い、ご本人、ご家族の同意を得ている。ご本人、ご家族、医療機関と話し合いを行い支援できる体制は整えている。	利用契約時に「医療連帯制同意書」の内容を説明して本人、家族の同意を得ている。看護師が非常勤で勤務しており、協力医療機関と連携し、支援できる体制は整えている。しかし、重度化や終末期(看取り)のケアを行ったことはない。	重度化や終末期ケアについての手順書は作成されているが、ケアの実践がなされていない。重度化や終末期ケアを想定した職員研修について検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、緊急対応マニュアルを作成しており、全職員が対応できるように行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の指導のもと、年に2回、昼・夜を想定した訓練を行い災害時に備えている。全職員が初期消火・避難誘導について理解を深め訓練時には消防署、地域の方の協力を得ている。	消防署の指導や地域消防団参加のもとで年2回、3月は夜間、10月は日中を想定した消防訓練を実施している。事業所には自動火災報知機やスプリンクラーを設置し、非常食や備品等は隣接の老人福祉施設で備蓄管理している。今年は地震想定訓練も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の居室へ入室する際にはノックをし居室におられない時は必ずご本人に確認を行っている。トイレ介助の際の時は外で待つなど徹底している。言葉遣いや態度にも注意し当苑の基本理念に基づき対応を行っている。	入浴やトイレ介助は利用者一人ひとり個別に対応し、プライバシーに配慮した言葉かけやケアを行っている。毎月発行される広報紙の写真や掲示物、個人記録等は「個人情報の使用に係る同意書」で本人や家族の同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活される上で入浴、起床の際の衣類の選択や買い物など自分で選んで決定できるように場面作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務スケジュール作成を行っているがその方の1日の過ごし方を尊重し、また、ご利用者の希望や体調を考慮し臨機応変な対応ができるように行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時など着用する衣類を本人様に選んで頂いている。また行き慣れた美容院などにご家族と共に定期的カット、パーマに行かれたり、月に数回ある訪問の美・理容の散髪を希望に応じて利用されてある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	花見に出かけたり、庭で食事したり等行い楽しく食事できる雰囲気作りを行っている。また、畑で収穫した野菜を調理して食べたり、誕生会には好みの物を提供している。買い物、調理、盛り付け、片付け等も一緒に行っている。	食事は利用者と一緒に準備や後片付けを行い、同じ物を食べている。庭の畑で大根、人参、ジャガ芋等を収穫し、漬物や梅干、らっきょ作りをして食事に提供している。毎月「今日は〇〇の日」と食事を楽しむ工夫を行い、食前の手指消毒や嚥下訓練等、安全面の配慮もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の指導の下バランスのとれた食事が提供できている。食事や水分確保が難しい時には形態を変えたりしながら、脱水や食事量低下を防ぐ為の支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ずつ口腔ケアを行っている。義歯使用の方は外して洗浄を行っている。また口腔内の状況を確認しながら必要な場合にはご家族に連絡し歯科の受診を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況については、その都度チェック表に記入し、排泄パターンを把握し時間ごとや希望時、トイレ誘導を行っている。また排泄のサインを見落とさないように努めている。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた排泄介助を行っている。失禁が軽減したり、リハビリパンツから布パンツ使用に改善した方もおり、排泄の自立に向けた支援が行なわれている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し状況の確認を行っている。出来るだけ水分補給行って頂けるように、こまめな水分補給や体を使った運動など行い便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望を尊重しており、一人一人の希望や体調に合わせて支援している。また、ゆず風呂やみかん風呂など行事の中に取り入れ楽しんで頂けるように努めている。	毎日入浴介助を行い、利用者に二日に1度は入浴していただくよう支援している。入浴できない時は清拭を行い清潔保持に努めている。お湯は天然の温泉であり、隣接の掛け流しの温泉で足湯を楽しむこともできる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調、生活習慣状況に合わせ、日中は出来るだけ規則的な生活リズムをご利用者ごとに行い、夜間は良眠して頂けるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の服薬されている薬の内容についてはファイルを作成しいつでも確認できるようにしている。症状により服薬の変更がある際には必ず全員が把握するようにしている。服薬の際には介護職員二人で必ず声掛けし合いチェック表に記入し誤薬、投薬忘れのないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の得意な事、以前仕事で行われていた事(食器拭き、食事準備、洗濯物たたみ)など生活歴や力を活かした役割を見つけその人らしく過ごして頂けるように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食事の買い物へ出掛けたり、地域の行事やショッピングに出かけ外出の機会の支援を行っている。	散歩や買い物等、個別の外出を支援し、毎月、グループに分かれてのショッピングや季節毎の花見(桜、藤、百合など)に弁当を持って出かけている。12月は、柳川方面へイルミネーション見物に行く予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理をされてあるかたはおられないが、地域の行事やショッピングの時はご家族に事前にお預かりしたお金をお渡しし、欲しい物を購入して頂けるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の取り次ぎを行うように努めている。暑中見舞いや行事の中の文の日にはご家族へ手紙と届けられるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感のあるものを置いたり、廊下には月ごとの行事の写真を掲載しており立ち止まり見ておられる。	事業所は中庭を囲む回廊式の建物である。台所と食堂兼リビングは吹き抜けの空間で、広く明るい窓から柔らかな陽が射し、季節を感じる田園風景が望める。畳の間もあり、居心地良くゆっくりと過せる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはソファ、テーブル、ホールには畳、ちゃぶ台を設置しご利用者同士くつろがれたり、お一人でゆっくり過ごされている。また天気の良い日には中庭のベンチでゆっくりと過ごされることもある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境に少しでも近づくように使い慣れた家具や写真などご家族の協力の下持ってきて頂いている。	居室には本人や家族の希望で好みの物が持ち込まれている。家族の写真やテレビ、家具を持参された方、フローリングに敷物をしている方等、本人が居心地良く過ごせる部屋になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、浴室まで分かりやすく表示している。また廊下の椅子、ソファ等配置を考え安全な環境作りを行っている。		